

小学校区を単位とした宇部市の学童保育施設の設置状況 その3  
学童保育施設の設置動向と水準評価に関する研究 その9

山口県	学童保育	設置タイプ
他施設活用	施設立地	ヒアリング調査

○準会員	河田 博之*
正会員	草野 啓太**
正会員	中園 真人***
正会員	孔 相権****
正会員	山本 幸子*****

### 1. はじめに

本研究は多種多様な学童保育施設の整備状況を整理し、その実態を把握することを目的としている。前報のその2では小学校内に設置した事例を対象とし、整備状況や開設の経緯を確認した。その3ではふれあいセンターと保育所を中心とした他施設活用の事例を同様に分析することにより、他施設活用における学童保育の実態や開設の経緯をより明確にし、他施設活用型の有効性を考察する。

### 2. 研究対象の選定

前報表2に2014年度宇部市校区一覧と研究対象を示した。宇部市24校区の内、他施設を活用した学童保育を有する校区は16校区である。その内、「ふれあいセンターのみ」が2校区、「保育所のみ」が1校区、「ふれあいセンター+保育所」が3校区であり、これらを0型に分類する。また、「小学校+保育所」が2校区あり、これをS+0型に分類する。本論では前報表2中の「その3」に示した8校区を研究対象とする。

### 3. 研究の方法

本研究に伴い、研究対象の8校区に関して以下の事項を調査した。

①学童保育室の実測調査・家具配置の記述、②学童保育指導員に対してのヒアリング調査（対象児童学年、主に来所する児童数、運営主体、開設年度、開設に至った経緯、保育体制、組み分け、法改正に対する対策）、③児童の遊び場の調査、④写真、である。

また、学年別の登録児童数、定員、指導員数、学童保育室面積、使用建物種類に関しては、宇部市子ども福祉課にヒアリング調査を行った。以上の調査データを用いて他施設活用型の学童保育の有効性を考察する。

### 4. 他施設活用型の学童保育施設

表1に調査校区の概要を示す。他施設活用型の学童保育施設は1校区に1施設開設する単独開設型と1校区に2施設以上開設する複数開設型に分類される。

#### 4.1. 学童保育室と利用児童数の関係

図1に調査校区平面図を示す。全国学童保育連絡協議会では、1人当たり面積を1.65㎡以上とするガイドライ

ンが定められているが、調査対象校区では、8校区14施設において10施設が条件を満たす結果となった。単独開設型は3校区あり、「小野校区」「厚東校区」「二俣瀬校区」が該当する。これらの校区は比較的に開設年度が新しく、校区児童数の少ない校区であるが、1年生から6年生までを対象児童としているため、結果的に全校生徒のおよそ半数の児童が学童を利用していることが分かる。そのため、来年度以降の利用児童数の大幅な増加は見込まれず、現状を維持したまま学童保育の運営が可能と考えられる。厚東校区では、1年生から3年生までを学童保育、4年生から6年生を放課後子ども教室として一体的に運営している点に特徴がある。そのため、法人化の際に他校区の学童保育と同じ画一的な運営を回避するため、NPO法人を設立しNPO法人が運営を行っている。

複数開設型は5校区あり、その内、「ふれあいセンター+保育所」タイプは「常盤校区」「岬校区」「小羽山校区」である。この3校区7施設中、6施設がガイドラインの面積基準を満たす結果となった。これは、ふれあいセンターの学童保育室面積が比較的大きく、ふれあいセンターを中心に学童を運営し、保育所では卒園児を受け入れる役割分担体制が整っているためである。小羽山校区では、児童数が多い時間帯は、ふれあいセンター専用施設を使用し、お迎えで児童数が減ると、ふれあいセンター内の部屋へと移動するため、運営時には室の使い分けがなされている。

「小学校+保育所」は「琴芝校区」「黒石校区」である。この2校区4施設中、小学校2施設が面積基準を満たす結果となった。琴芝校区では、保育所の利用児童数が多いため、小学校の学童に余裕が生じたと考えられる。黒石校区では、利用児童数が多いことを想定して小学校に大規模専用施設を建設したため、現状余裕があると考えられる。

他施設活用型は、基本的には、ふれあいセンターや小学校で主に児童を受け入れ、卒園児を対象に補助的に保育所で学童を実施する傾向にある。保育所では、園児の頃から見知った保育士による一貫した保育を受けられ、児童の預かり所として保護者の信用が厚いといえる。

#### 4.2. 児童の外遊び

表1の外遊び場所の着目すると、保育所6施設の内、

表 1 調査校区の概要

小学校区	小野	厚東	二俣瀬	常盤		岬		小羽山			琴芝		黒石		
開設場所	保育所	ふれあいセンター	ふれあいセンター	ふれあいセンター	保育所専用施設	ふれあいセンター	保育所	ふれあいセンター1	ふれあいセンター2専用施設	保育所空き家	小学校余裕教室	保育所	小学校敷地内専用施設	保育所	
構造・階数	RC造・1階	RC造・1階	RC造・1階	RC造・1階	木造・1階	S造・1階	RC造・1階	RC造・1階	木造・1階	木造・1階	S造・1階	RC造・2階	S造・1階	RC造・1階	
運営主体	育修会	NPO法人	一般法人	市社協	学校法人	市社協	るんに保育園	市社協	市社協	白光会	一般法人	大学院幼稚園	市社協	東割保育会	
開設年度	2003	2005	2005	1997	2004	1998	2001	1981	2004	1993	2006	1998	2014	2002	
校区児童数	28	50	44	454		194		369			475		542		
保育士数	2	3	6	4	4	4	2	4	4	1	3	3	10	3	
登録児童数	1年	3	3	5	14	9	2	10	0	24	5	14	24	32	15
	2年	5	9	5	12	4	8	5	15	13	1	13	22	26	20
	3年	1	6	6	10	11	12	6	21	0	4	9	19	20	13
	4年	4	4	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	5年	4	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	6年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	23	29	36	24	22	21	36	37	10	37	65	79	48	
保育室面積	30.0	48.0	40.0	80.2	122.0	138.6	36.0	28.9	93.8	30.0	62.5	78.0	168.5	50.0	
1人当たり面積	1.76	2.09	1.38	2.23	5.08	6.30	1.71	0.80	2.53	3.00	1.69	1.20	2.13	1.04	
外遊び場所	園庭	広場	駐車場	広場	空き地	公園	園庭	広場		園庭	中庭	園庭	サブグラウンド	園庭	

5 施設が外遊びの場が園庭である。この園庭は、園児と児童の両方が使う場となるため、安全面から時間的な使い分けが行われている場合が多いが、異年齢交流の場として共有して遊ばせているところもある。常盤校区では、1校区だけ空き地を遊び場としている。これは保育所の管理する広大な土地を利用したもので、学童保育施設もこの土地に専用施設を建設している。このように、保育所と併設する施設も多様な展開を見せている。

ふれあいセンターの遊び場は、広場、公園、駐車場とあるが、広場は施設内に十分な広さを有しているため、安心・安全に児童が遊ぶことができる理想的な場である。また、岬校区の児童公園では、近隣の集合住宅から学童以外の児童も遊びに来るため、遊び相手に困らないといえる。ところが、二俣瀬校区の駐車場では、ふれあいセンターの職員の駐車場の片隅を学童のために開放して使われている。指導員の警戒や職員の配慮が欠かせないため、遊び場としては厳しい条件である。

### 5. 開設に至った経緯

宇部市の学童保育施設が開設に至った経緯を開設年度、設置タイプの変遷、開設理由、使用建物理由からヒアリング調査によって知り得た結果を表2に示す。学童保育の開設プロセスより、他施設活用型の宇部市の学童保育施設は、小野校区を除く7校区全てがふれあいセンターから学童保育事業を始めており、その内、黒石校区を除く6校区が現在まで運営されている。

保育所は、ふれあいセンターが開設された後に、新たに設置される傾向がある。また、対象児童が卒園児に限られるため、校区内における保育所の役割はふれあいセンターまたは小学校の学童保育施設の補助的な役割を担う施設として位置付けられる。しかし、運営方法や対象

児童が制限されるため、学童保育というよりは、保育園の延長という位置付けに近いようである。

保育所が開設に至った経緯には、保護者の要望が多く挙げられる。例えば、「弟の通う保育所に兄の学童があれば保護者のお迎えが保育所の1か所で済むため効率がいい」などという事情があるためである。また、岬校区の保育所では小学校の学童が一般的に18時までなのに対して、保護者が実際に勤務を終え迎えに来ることができる19時まで保育を目的としたことがきっかけである。琴芝校区では、障害児を受け入れる学童が開設当時なかったため、保育所で受け入れをしたことがきっかけである。

このように、保育所は保育の需要に合わせて柔軟に対応してきた施設であることが明らかとなった。

黒石校区の学童保育は、ふれあいセンター内に開設することから始まったが、利用児童数の増加で、小学校の余裕教室に学童保育施設を設置することになった。その後、保護者の要望により、保育所にも学童を設置することとなり、100名規模の児童を受け入れるため、ふれあいセンターと余裕教室で開設していた学童保育を小学校敷地内に大規模専用施設を新設することにより統合し現在に至っている。保育所に設置された学童については保護者の要望もあり、統合されず現在も運営を継続している。

小羽山校区の学童保育は、保護者の要望により、ふれあいセンターでの開設に始まり、その後、保育所にも設置された。この保育所では、保育所に隣接する空き家を改修して学童保育を実施している。さらに、小羽山校区の利用児童数が100名規模になったため、ふれあいセンターの敷地内に専用施設が増設された。小羽山ふれあいセンターは、十分な広場があるため、ふれあいセンター内に学童保育施設を2施設設置することができるような恵まれた環境にある。

他施設活用型は、各施設の立地条件や運営方式によっ



▷: 出入口 WC: トイレ T: 畳 C: カーペット F: フローリング P: Pタイル M: マット 2m 6m

図1 調査校区平面図

表 2 学童保育施設の開設の変遷と経緯

校区	児童クラブ名称	開設年度	開設種類	使用建物	開設タイプの変遷	開設理由	使用建物理由	開設以前の使用用途
黒石	黒石Ⅰ学童保育クラブ	1999	新設	ふれあい	O1			
	黒石Ⅱ学童保育クラブ	2002	増設	学校・余	S101	ふれあいセンターの利用児童数の増加		PTA室
	東割保育園学童保育クラブ	2003	増設	保育所	S102	保護者からの要望	卒園児の受け入れ、お迎えの効率	調理室
	黒石校区学童保育クラブ室	2014	統合	学校・専	S101	校区内児童数の増加、施設Ⅰ・Ⅱの狭小化	100名規模の児童を受け入れるため	サブグラウンド
琴芝	琴芝Ⅰ学童保育クラブ	約1977	新設	ふれあい	O1			
	大学院幼児園学童保育クラブ	1999	増設	保育所	O2	障害児を受け入れる施設がなかったため	卒園児の受け入れ、お迎えの効率	遊戯室
	琴芝Ⅱ学童保育クラブ	2006	増設	学校・余	S102	施設Ⅰの利用児童数の増加	空き教室があったため	空き教室
常盤	常盤学童保育クラブ	約1996	新設	ふれあい	O1	校区内児童数の増加		
	明光幼稚園学童保育クラブ	2004	増設	保育所	O2	センターの利用児童数の増加	卒園児の受け入れ、お迎えの効率	空き地
小羽山	小羽山Ⅰ学童保育クラブ	1981	新設	ふれあい	O1	保護者からの要望		
	めぐみ保育園学童保育クラブ	2001	増設	保育所	O2	保護者からの要望	卒園児の受け入れ、お迎えの効率	民家
	小羽山Ⅱ学童保育クラブ	2004	増設	ふれあい・専	O3	共働き世帯の増加、施設Ⅰの利用児童数の増加	100名規模の児童を受け入れるため	空き地
岬	岬学童保育クラブ	1998	新設	ふれあい	O1	宇部市が各校区に学童保育を開設したため		
	るんびに保育園学童保育クラブ	2001	増設	保育所	O2	小学校(18時)が保育園(19時)より保育時間が短いため	卒園児の受け入れ、お迎えの効率	保育室
厚東	厚東学童保育クラブ	2005	新設	ふれあい	O1	保護者からの要望、放課後の遊び場としての需要	空き教室なし、地域交流の場	事務室
二俣瀬	二俣瀬学童保育クラブ	2005	新設	ふれあい	O1	保護者からの要望、共働き世帯の増加	空き教室なし、保育所は道中が危険	
小野	小野保育園学童保育クラブ	2002	新設	保育所	O1	保護者からの要望、共働き世帯の増加	卒園児の受け入れ、お迎えの効率	保育室

て学童保育の質を左右する設置形態であると考えられる。ふれあいセンター内の土地に余裕がある場合には、広場で外遊びをしたり、敷地内に専用施設を設けたりしている事例がある一方で、余裕がない場合には、駐車場を遊び場としている事例もある。

保育所では6施設全てが私立保育所となっている。保育所を運営する個人や法人が独自に設立し、学童保育を運営しているため、保育面に対して問題が生じれば迅速かつ柔軟な対応が可能となるが、保育所の運営方式により各々学童保育の差があるといえる。

6. まとめ

宇部市では、ふれあいセンターと保育所を学童保育施設として活用し、全校区で学童保育を実施することができている。本論では、他施設活用型の8校区14施設を対象とした調査を行い、以下の知見が得られた。

1) 児童1人当たり面積を1.65㎡以上とするガイドラインが定められており、宇部市の他施設活用型8校区14施設の内、10施設が面積基準を満たす結果となった。単独開設型の3校区は校区児童数の割に利用児童数が多いため、全校児童のおよそ半数の児童が学童保育を利用している。複数開設型は基本的には、ふれあいセンターや小学校で主に児童を受け入れており、卒園児を対象に補助的に保育所で学童を実施する傾向にある。

2) 児童の外遊び場所は、保育所では園庭を利用することが多く、一部では保育所の管理する空き地を使う場合がある。ふれあいセンターでは広場、公園、駐車場と遊び場が多様であり、施設の立地条件が遊び場に影響しているといえる。

3) 他施設活用型の学童保育施設は、開設に至った経緯について小野校区を除く7校区全てがふれあいセンターから学童保育事業を始めており、その内、黒石校区を除く6校区が現在まで運営されている。保育所は、ふれあ

いセンターが開設された後に新たに設置される傾向があり、校区内における役割は、ふれあいセンターの利用児童数が増加した際の補助的な施設として捉えられる。また、保育所で学童が運営された場合、児童と園児の兄弟を一括して迎えに行けるため、保護者の要望が多かったことが開設理由に挙げられていた。保育所における学童保育設置の経緯は様々であるが、琴芝校区と岬校区のように地域の事情に柔軟に対応しており、独自運営による柔軟な対応が保育所の特徴であるといえる。

4) 他施設活用型は、各施設の面積規模、立地条件や運営方式により、学童保育の質を左右する傾向があり、校区内のふれあいセンターという使用建物種類が同じであっても、使用できる室面積や外遊びの場は多様な展開を見ることが他施設活用型の特徴であるといえる。

謝辞

今回の調査にあたり、宇部市子ども福祉課和田様には情報提供、並びに調査日程の調整等、多大なご協力を頂きました。また、各校区学童保育指導員の皆さまには、ヒアリング調査等のご協力を頂きました。ご支援・ご協力頂きました皆さまに深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 全国学童保育連絡協議会：学童保育情報、2013-2014、2013.10
- 2) 塚田由佳里、小伊藤亜希子：学童保育所の整備状況と地方自治体の対応からみた施設整備課題 - 国の大規模保育解消策とガイドラインへの対応を中心に - 日本建築学会技術報告集、19巻42号、pp.683-688、2013.6

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生	* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
** 山口大学工学部感性デザイン工学科 博士前期課程	** Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
*** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博	*** Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng
**** 山口大学大学院理工学研究科 講師・博士(工学)	**** Lecture, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr.Eng.
***** 筑波大学システム情報系社会工学科助教・博士(工学)	***** Assistant Professors, Tsukuba Univ., Dr.Eng.